

2014年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	情報学科						
科目名	教育相談						
科目区分	教職科目	単位数	2単位	開講時期	3年次前期		
必修・選択の別	選択科目(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場での諸問題の現状(文部科学省による定義、具体的発生数・認知数等)について、実態を説明できる。 ・上述の諸問題について、典型的・基本的な対応方法を理解し、具体的に実践することができる。 ・教育相談に関する用語の意味と基礎的な方法を説明できる。 ・カウンセリングの基本的理念や技法を説明できる。 ・子ども理解に関わる主要な心理検査の種類とその特徴について説明できる。 						
日程と内容	<p>4/7 導入講義 ～授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示～</p> <p>4/14 教師に望まれるカウンセリング・マインド ～カウンセリング・マインドとは何か～</p> <p>4/21 教師に望まれるカウンセリング・マインド ～具体的な技法、トレーニング方法～</p> <p>4/28 ～パーソナリティの諸理論、発達①～</p> <p>5/12 ～パーソナリティの諸理論、発達②～</p> <p>5/19 児童・生徒の理解 ～知能検査～</p> <p>5/26 児童・生徒の理解 ～人格検査、心理検査が備えるべき条件～</p> <p>6/2 児童・生徒の理解 ～人格検査、心理検査の実践～ 児童・生徒への対応 ～カウンセリングの基礎技法～</p> <p>6/9 諸問題への対応 ～不登校・いじめに対する理解と対応～</p> <p>6/16 諸問題への対応 ～非行に対する理解と対応～</p> <p>6/23 諸問題への対応 ～性的問題に対する理解と対応～</p> <p>6/30 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応①</p> <p>7/14 障がい児、特別な援助が必要な児童・生徒への理解と対応②</p> <p>7/19 進路への指導と援助</p> <p>7/21 養護教諭・スクールカウンセラーの役割と連携・まとめ、他機関との連携</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	指定テキストのデータが古いものについては、最新のデータや図表を紹介することで、教育に関係する最新の現状を理解できるよう留意した。講義だけではなく、教員採用試験に出題される文書について的小テストを実施したり、教育相談に関する事項についての自分個人の意見を述べる課題を与えるなど、積極的・主体的に取り組める内容も組み込むようにした。その結果、大部分の学生で到達目標が達成できたことと捉えられる。しかし一方で、最終試験を放棄した学生が3名、到達度から不合格となった学生も5名見られる。						
反省点	教員として必須の知識である教育相談の科目であるが、小レポートの内容等から、「学生の視点」からいじめや不登校などの問題を捉えている学生が多く、いまだに「教員としての視点」からは諸問題を捉え切れていないという印象を受けた。教育相談科目を通して、教職そのものについてのより高い意識づけや理解を深める必要があるだろう。						
来年度の計画	来年度は、よりこまめに感想や小レポートなどを求めることにより、学生の現状をより深く把握した上で、教育的課題についてのそもそもの捉え方の視点、教員としての意識や動機づけを高めていきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	全項目において、全科目平均値程度～上回る数値での評価が得られており、学生からの一定の満足度が得られたと考えられる。課題として、学生自身がより興味を持ったり、予習や復習をするといった能動的行動に関する項目において、やや評価が低いようである。授業を聴いて終わるだけではなく、積極的な学習の姿勢に繋げられる授業をより心がけたい。 個人個人の回答を見てみると、最終評価も含めて全て同じ列に機械的に評価をつけているような学生も見受けられたので、より深く振り返った上で回答してもらえるよう、来年度はアンケートに回答する姿勢からより丁寧に導入したい。						
履修登録者数	40名	定期試験 受験者数	38名	合格者数	33名	合格率	87%